

活動10周年・プレコンサート

レクイエム・プロジェクト仙台2022



主 催：レクイエム・プロジェクト実行委員会、レクイエム・プロジェクト仙台実行委員会

特別協賛：(株)ケー・エフ・シー

協 力：和田 忠<グラフィックデザイン>、小田島 智<小田島ピアノ調律所>
(株)エムプロジェクト<ライブ配信、収録>

2022年 8/28 日 開演 午後 2時00分
開場 午後 1時00分

会 場：日立システムズホール仙台・コンサートホール
(仙台市青年文化センター)

ごあいさつ

作曲家、レクイエム・プロジェクト代表 上田 益 うえだ すずむ

本日は何かと制約を受けやすい状況の中ご来場いただき、誠に有難うございます。

阪神・淡路大震災の被災地「神戸」で2008年から始まったレクイエム・プロジェクトは、来年2月で活動15周年を迎えます。そしてここ「仙台」では、東日本大震災の2年後となる2013年4月から活動を始め、現在10年目に入っています。同じ東北の被災地「北いわて」(久慈市を中心とする、岩手県北部沿岸地域)でも、同じ年の11月から活動が始まり、まもなく活動10年目を迎えます。

そもそも「レクイエム・プロジェクト」とは何なのか。

一言で言えば、自然災害や戦争で傷ついた地域で行っている、「追悼」「希望」「大切ないのちへの思い」をテーマにした合唱プロジェクトです。これまでに全国10箇所で開催し、現在もそのうち7箇所で開催した通年の活動を行っています。つまり、コンサートを行うことだけを目的とした活動ではないのです。

直近の被災地では、それぞれの被災者が心の内にある悲しみ、苦しみなどを共に歌に託し、お互いに共有し共感することで、人と人、地域と地域が自然に繋がっていくプロジェクトでもあるのです。その根元にあるものは何かといえば、思いを託す合唱作品そのものです。

その作品を活動しているすべての地域の合唱団ではほぼ同じタイミングで練習し、それぞれのコンサートにボーダーレスに参加しながら交流し、繋がっていくのです。本日も、北いわて、東京、神戸、広島から有志が参加しています。

レクイエム・プロジェクトで歌っている楽曲はすべてプロジェクトで生まれたオリジナル作品です。活動を行う被災地の詩人に詩を書き下ろしていただき、プロジェクトの主宰者であり代表である作曲家の上田益が作曲した楽曲ばかりです。被災者と同じ経験をし、同じ心の痛みを抱えている詩人だからこそ、書き下ろされたその詩には、歌う者や聴く者にとって共感と共有を促してくれる世界が広がっているのです。ラテン語の作品は、代表の上田益が1999年からコロナ禍で中断する2020年の前年まで21年間にわたり、毎年会場で流れる音楽を作曲していた神戸ルミナリエのための作品が多く含まれています。阪神・淡路大震災の犠牲となった方々の追悼と神戸の街の復興を願って開催されてきた神戸ルミナリエは、私にとってもこのプロジェクトの原点となっています。

10年ひと昔とよく言われますが、アウェイの地で10年にわたって一つの活動を行うことは、とても難しいことでもあります。ここまで続けられてきたのも、工藤先生や実行委員の皆さん、そして団員の皆さんの思いがあっこそ。心から感謝申し上げます。仙台での活動は来年3月末で10周年。10周年の記念コンサートは、来秋を予定しています。

そしてそこから先は、更に被災地の活動として意義ある年月を重ねていきたいと思っています。

日立システムズホール仙台でのコンサートも3年ぶりとなります。1日も早く、これまでのような生活が戻ってくることを願わずにはられません。



上田 益 プロフィール

京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。1980年度文化庁芸術家国内研修員として東京で研鑽を積む。長野オリンピック公式楽曲や神戸ルミナリエ、TVドラマ、アニメなど幅広いジャンルの楽曲を手掛ける。2008年に阪神・淡路大震災の被災地・神戸において、「追悼と希望」「大切ないのちへの思い」をテーマとし、レクイエム・プロジェクトを開始。その活動は、地震などの自然災害や戦争で傷ついた全国に現在広がっている。東日本大震災被災地では、北いわて(久慈、野田村など、岩手県北部沿岸地域を中心とした地域)、仙台、気仙沼、福島市、南相馬で活動を行い、大船渡、陸前高田の被災者の方々も参加。その他の地域では神戸、東京、兵庫県佐用町、広島、長崎、沖縄でこれまでプロジェクトが行われ、その多くの地域で継続した活動が行われている。

レクイエム・プロジェクト実行委員会

代表: 上田 益 副代表: 高田 薫

レクイエム・プロジェクト仙台実行委員会

実行委員長: 工藤欣三郎

実行委員: 吉岡恵美、米田和由、花田美子、米田典子

第1部

① 混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」(詩:上田由美子)より……………指揮:佐賀慶子 ピアノ:菅原紀子

1. 野辺

野辺に咲くりんどうの花
より添う露の光が
暗闇の中の花を照らす

地の下では巡り来る春にそなえて
うごめくものを探りながら
命の糸の繕いが始まる

誰にも気づかれず
野辺の一隅でそっと咲く
りんどうの花にも露が寄りそう

命あるものはすべて等しく
自然の恵みが降りそそぐ
人知れず咲いた花にも降りそそぐ

ただ無心に紫の色を濃く薄く
天に示して

3. 海神に守られて

遥かな涯(はて)から聞こえてくる
わが子を呼ぶ母の声が
海なりを振りほどいて
風になって吹いておいで
雨になって降りておいで
この母のもとへ帰っておいで

幾たび季節がめぐってきても
幾多の苦しみを海に溶かしても

遥かな涯から聞こえてくる
わが子を呼ぶ母の声が
絆がちぎれて消えた子よ
水平線の青の中へ
凍(いて)ついた海の底から
漣(さざなみ)を分けて帰っておいで

夕日に吸い込まれながらも
母と子の呼び合う声が
波間をさ迷い聞こえてくる
海神(わだつみ)にまもられながら
闇夜をたぐり寄せながら
光の先には 幼子がいて

4. 天と地と海と

万人の心に万の景色の海がある
広い海原のどこからも
若き兵士の命の断片が
海鳴りの中で響き合う
遥か海の果から
日が昇り日が沈む時
人が生まれ人が死す
海は幾多の骸(むくろ)を深々と抱いて
祈りの詩を海の果まで広げていく

万人の心に万の景色の海がある
あなたの嘆きを
私の嘆きを
たとえ戦いに敗れようと
森羅万象祈りの詩(うた)を
広い海原に轟かす
風が波を切りながら
その声は一つになって
天空へと吸い込まれていく

② 久慈市在住の詩人・宇部京子氏の作詩による作品から……………指揮:工藤欣三郎 ピアノ:菅原紀子

1. 雪の村

雪の村に お日さまは 千の顔で ほほえむよ	雪の村は しずかだよ だから じっと耳をすます
雪の村に お月さま 万の顔で にっこりと	雪の村は すぎとおるよ それで じいっと目をこらす
雪の村の 夜空はね 億の星が きらめいて	光のふしぎ 音のふしぎ ふしぎがわたしを呼んでいる 幾千万の星々の あおい静寂が呼んでいる

2. 風のように

すぐくすぐく くじけそうで こわれてしまいそう	月も星も雲にかくれ 見上げる闇の夜 そう あの日の あなたのやさしさが くやまれて
こおりついた白い夜 見上げる星屑	けれど 明日また日はのぼる オレンジ色の朝日が あざやかに
そう あの日は あんなに ふざけあっていたのに	だから つよく つよく 風のように やさしく あなたはわたしの中で生きてゆく
とてもとても つらくて 涙もでてこない	

3. とうさんの海

さみしいとき うれしいとき	とうさんとおなじ 背中 かがらを ひろう
まよったとき つかれたとき	とうさんとおなじ 目線で 水平線を みる
とうさんの海に 会いにいこう	とうさんとおなじ 手つきで はまなすを たおる
とうさんとおなじ 歩幅で すなはまを あるく	とうさんの海は わたしのふるさと ザッポーン ザッポーン ザッラーン ザッラーン

4. 三陸鉄道が行く

赤いはまなす 浜辺の小径 君はとおい空のうえ 涙色の 海の向こうに日は昇る	青い松原 きつねの小径 あの子はとおい空のうえ 涙色の 海の彼方に日は昇る
行くぞ! われらの三鉄が リアスの海を まっしぐら リトル・リトル・リトル・トレイン 荒波こえて	行くぞ! われらの三陸鉄道 霧のリアスを つきぬけろ リトル・リトル・リトル・トレイン 濃霧けちらし
がったん ごっとん はしれ!	がったん ごっとん すすめ!

③ 児童(女声)合唱組曲「今この時を」(詩:伊波希厘)より……………指揮:佐賀慶子 ピアノ:菅原紀子

1. 風が生まれる

時間のまんなかで
悔しくて立ちどまるとき
こころの森
裸足になって歩いてみよう
つまさき やんわり
染まってゆくよ
不思議だね
ぼくのこころに いま
みどりの風が生まれる
もっと優しくなれるように
ぼくが ぼくであるように

時間のまんなかで
泣きたくって立ちどまるとき
こころの泉
両手ですくって見つめてごらん
ゆびさき ひんやり
満ちてくるよ
不思議だね
きみのこころに ぼら
みずいろの風が生まれる
もっと強くなれるように
きみが きみであるように

生きている時間のまんなかで
ぼくのこころに 風が生まれる
きみのこころに 風が生まれる

3. 今この時を

ささやかな願いを込めた
初めての種をまいたら
だれかに そっと話したくなる
さりげない約束を告げる
初めての花を見つけたら
だれかに そっと教えたいくなる
こころが動き出す

あの日の雲のかたち
ひたむきに手を伸ばした
そんなふうに
小さなひとつひとつで
世界はつくられていた

うつくしい贈り物みたいな
初めての雪が降ったら
あなたに きっと見せたいくなる

ゆずれない宝物みたいな
初めての涙こぼれたら
あなたに きっと伝えたいくなる
こころを重ね合う

あの日の思い胸に
よみがえり目をつむった
そんなふうに
大切なひとつひとつで
世界はつくられてゆく

たしかめる足あとのような
はてしない祈りのような
そんなふうに
大切なひとつひとつで
未来はつくられてゆく

そんなふうに
特別な今この時を
みんなみんな生きている

4. はじまりの日のうた

覚えていますか
朝つゆ寄せたつぼみに
そよ風はなしかけるような
はじまりの日のうたを

もらったばかりの名前
呼んでいたのは
ずっとわたしを待っていたひと
やわらかな光に包まれて
凜として咲きなさいと

わたしたちが地球で目を覚ました
命のはじまりの日のうたよ

覚えていますか
ひな鳥まるい巢のなか
日なたのにおいのような
はじまりの日のうたを

行ったことのない場所
なつかしかったのは
ずっとわたしを待っていたから
あたたかな光を抱いて
羽ばたいていきなさいと

わたしたちが地球で大きく息をした
命のはじまりの日のうたよ

覚えていますか
はじまりの日のうたを
命をありがとう

休憩 15分

第2部

① ラテン語の作品から 指揮: 上田 益 ピアノ: 菅原紀子

1. 神から授かったかけがえのない命 2. アヴェ マリア～母に寄す～ 3. ラクリモーザ 4. サルヴェ・レジーナ

② 混声合唱組曲「また逢える」～いのちの日々かさねて～(詩: 寺島英弥)より 指揮: 工藤欣三郎 ピアノ: 菅原紀子

楽曲が生まれた経緯

これまでレクイエム・プロジェクトでは、福島の和合亮一さん、岩手の宇部京子さん、広島の上田由美子さん、沖縄の伊波希厘さんといったプロジェクト活動地域(被災地)の詩人に書き下ろしていただいた詩を元に、被災地の思いを歌に託す合唱作品の創作に取り組んできました。

そして仙台からも同様に新しい作品を創りたいと兼ねてから願っていましたが、2019年に工藤欣三郎さんのご紹介で福島県相馬市のご出身で、河北新報社の報道部記者、編集委員、論説委員を歴任され、現在もローカルジャーナリストとして東日本大震災被災地の取材などを続けておられるほか、尚絅学院大学客員教授として後進の指導にもあたっておられる名取市在住の寺島英弥さんに会い、詩をお願いしたのです。

詩の依頼のためにメッセージのやり取りをさせていただいたのが、2019年6月19日。その時のやりとりの中で、寺島さんは「私は一介のジャーナリストです。ただ被災地を8年歩いて、終わらない苦難と希望の狭間で生きる同胞たちの声を伝えようとしてまいりました。古里も被災地になった私の人生の仕事になりました。詩人ではありませんが、それでもよろしいのでしょうか」とのお話があり、私は「言葉、文章で、被災された方々のたくさんの思いを綴り伝えていらしゃった寺島さんだからこそ、お願いしたいと心から思っています」とお伝えしました。詩のスケッチを受け取ったのが同年9月初旬。そこから何度かプレストさせていただき、9月末に詩が出来上がりました。

詩を歌う、言葉を歌うことを大切にしているレクイエム・プロジェクトに相応しい詩を書き下ろしていただきました。

創作を始めていく中で始まった2020年1月からのコロナ禍。作曲の作業は、まさに全国が自粛の嵐の只中にあり、レクイエム・プロジェクトの活動も一時停止している状況下でのことでした。

(上田益 記)

1. あの日

明日 それはどんな時だったのか
昨日 人の暮らしは のどかに明け暮れ
古き町は永遠(とわ)に変わらぬと信じた
目の前にあるものは なんにもなくなった町

浜 そこに何が満ちていたのか
市場 朝 帰り船 水揚げ ざわめき
イカ焼くばあちゃんよ 夏の子どもらよ
目の前にあるものは わが家の跡を探す人影

あの街も 暮らしも みんな どこへ
松原も 港も 漁師も みんな どこへ

波が洗ったトンネルに
幾多たたく影のあり
高き岩場におられた地蔵
なぜか海に面(おもて)向け
祈り捧げる姿にて
潮の騒ぎに声交じる

「共に泣け されど信じよ 遠けれど明日を」

3. また逢える

大切なものを喪(な)くすから 人は悲しむ
私にとっては あの子 私の命
だれの声も届かぬ間に 私はいた
光の差さぬ世界で 泣いていた

命も消えかけた その時 私は確かに聴いた
「また逢える」 だから生きろと
「いつか逢える」 だから生きろと
精いっぱい命を生き
その先で あの子は待っていると

哀しみなさい 泣きなさい
哀しみのなか あの子は生きる
哀しみは 私の愛
あの子の愛

光の先の あの子に導かれ
残された この生(いのち)をたどる

また逢える
いつか逢える

魂となって逢える日まで

4. このいのち 明日へ

天明の代の同胞(はらから)たちが
冷たい雨の夏 実りなき田に泣き
望み失い 道に伏し 家を捨て
されど わが祖は 荒れ野に鋤(くわ)を振るった
そして われら ここに生(せい)を受けた

新たな苦難が降り注いでも
思い継ごうと 私はこの地に戻り
荒れ野耕し 鋤振るい 種をまく
あの子らが この地に還る日のために

長き日々をかさねて
ふるさとに 生かされてきた
きつと還る 約束の旅

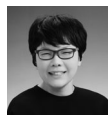
このいのち 明日へ



工藤欣三郎 指揮
 東北大学教育学部音楽科卒業。声楽を渋谷傳、藤井典明両氏に師事。指揮法を福井文彦氏に師事。在学中から様々な合唱団を指導。現在は「合唱団 コール・ユーベル」、「男声合唱団せんざん」、「コール・プリランテ」、「こーる・すまいる」、「コスモス合唱団」を指導。その他今年39回を迎える「仙台メサイア演奏会」の常任指揮者、レクイエム・プロジェクト仙台実行委員長、NPO法人「ミュージズの夢」副理事長、男の合唱祭仙台実行委員長。宮城県芸術協会会員。宮城県芸術文化功労賞受賞。



佐賀慶子 指揮
 秋田市生まれ。新潟大学特別教科(音楽)教員養成課程卒業。声楽を佐藤真弓氏、山形忠顕氏、故清水明子氏、小野綾子氏、ピアノを佐々木慈子氏、故渡部護氏、指揮を伊藤浩史氏に師事。2016年、全国職場バンドフェスティバル、日台親善感恩コンサート合唱指導、岩手国体開会式合唱指導。2017年、コール・クワザ・JR東日本東北吹奏楽団の有志を率いてサンフランシスコに赴き「桜祭り50周年記念ガラコンサート」に出演。2018年、混声合唱団グランを率い、国際シニア合唱祭横浜市長賞。翌2019年には神奈川県知事賞受賞。2019年、混声合唱団グラン2ndコンサートで、土の歌(佐藤真)全曲を仙台フィルの弦楽を中心としたオーケストラ版で指揮。現在、ひろせ合唱の会顧問、レクイエムプロジェクト仙台指導者、仙台メサイアを歌う会副指揮者。コーロ・カナリーノ、コール・はなみずき、コール・クワザ、混声合唱団グラン、コール・ソレイユ、JR東日本東北吹奏楽団を指揮・指導。



菅原紀子 ピアノ
 栗原市若柳出身。常盤木学園高等学校音楽科、宮城学院女子大学学芸学部音楽科卒業。同大学卒業演奏会に出演。仁科篤子、伊達華子の各氏に師事。第13回大阪国際音楽コンクール2台ピアノ部門エスポアール賞受賞。2016年にはリサイタルを栗原市と仙台市にて開催。2018年には遠野物語・栗原地方のわらべ歌・20世紀初頭のヨーロッパ音楽を題材に、音楽と語りによる演奏会「民話の音色」を企画構成し、遠野、栗原、仙台の3会場で好評を博す。その後も土地に伝わる民話伝承やわらべうたの世界を歩きまわり、2019年には遠野少年少女合唱隊の第30回記念演奏会にて、演奏と共に構成も担当した。また、親子で音楽体験 honobono(ほのぼの)を主宰し、0才から参加できる音楽遊びのワークショップを定期的に開催している。現在、こーるなんざい、コーラスわかやなぎ、ローゼンシュタットコール、メサイアを歌う会、レクイエムプロジェクト仙台各ピアノリスト。カーザムジカ音楽教室講師。宮城県芸術協会会員。

合唱団参加者名簿

レクイエム・プロジェクト仙台合唱団

ソプラノ●佐賀慶子、針生利志子、宮城久美子、池田紀子、吉岡恵美、沼崎啓子、武者とわ子、屋代純子、若松久美子、山田和子、三浦静子、長田淳子、花坂郁子、須貝幸枝、伏見郷子、島山美紀、吉田裕子、奥村富美子、庄子和子、佐々木いと、近藤悦子、名取史子、加藤睦美、斎藤由記江 アルト●菅野尚子、花田美子、竹谷百代、三浦芳子、寺田美保子、米田典子、我妻美由紀、石坂由美子、柳沼敏子、安部由紀子、松島 節、高橋真由美、浅野淳子、菅野恵子 テノール●海老誠一、大友昭一、西島恒郎、高橋孝男、伊藤豊美、小松敦博、寺島英弥 バス●菅野 勉、遣水初郎、佐山 健、米田和由、太田農夫也、伊藤 晃、佐藤忠則、菊地安雄、小川正人、新美俊信

レクイエム・プロジェクト北いわて合唱団 有志

ソプラノ●宇部京子、大井枝美子、木村晴子、遠藤静江、佐々木洋子、下新井田 則子、速應和子、高屋敷 眞喜子、舘場聡子、林崎洋子、アルト●東 育子、川村美代子、立花セツ子、晴山ヨウ子、谷地久仁子 テノール●藤岡龍海 バス●遠藤譲一、木村茂男、堀畑俊明

レクイエム・プロジェクト東京いのりのとき合唱団 有志

ソプラノ●荒船禎子、高田 薫 アルト●阿部早苗、池田美恵子、木村美佐子、米田陽子 バス●石井洋一

レクイエム・プロジェクト神戸いのりのとき合唱団 有志

ソプラノ●三條エリ子 アルト●青山真理子 テノール●青山佳弘

レクイエム・プロジェクト広島合唱団 有志

アルト●伊藤孝子 テノール●吉川 恵 バス●平岡昭洋

大切なふるさと

指揮：工藤欣三郎 詩、曲：上田 益

1)
 今年も夏が来て ひまわりの花が咲く
 めぐる季節が いのち育み 鮮やかに輝く
 あの日のふるさとを 悲しい思い出を
 私の胸に そっと抱きしめ 未来へ向かおう

2)
 秋の澄み渡る風 冬の凍てつく寒さ
 めぐる季節が いのち育み 静かに春を待つ
 あの日のふるさとを つらい思い出を
 あなたの胸に そっと抱きしめ 未来へ向かおう

3)
 暖かな春の陽 花たちは咲き競い
 星になった あなたの思い 清らかに薫る
 菜の花で編んだ 柔らかな架け橋は
 残された人を しっかり結び 未来へ導く

太陽の光が 希望へと導く
 夜空の月は 未来を照らす

山々が色つき 夢へと導く
 朝霧がいのちの 扉をひらく

美しい桜も 若葉の緑も
 ふるさとの明日を 見守っている

いつまでも いつまでも
 あなたの笑顔 忘れない
 いつまでも いつまでも
 大切な ふるさと

いつまでも いつまでも
 きみのやさしさ 忘れない
 いつまでも いつまで
 大切な ふるさと

※いつまでも いつまでも
 私たちと共に 歩む
 いつまでも いつまでも
 大切な ふるさと

混声、同声2部合唱版はカワイ出版から出版。混声3部合唱版は全音楽譜出版社刊・上田益 混声合唱作品集「ふるさとのうた、いのちのうた」に収録されています。

(※繰り返し)

レクイエム・プロジェクトとは

作曲家・上田 益(うへだ すすむ)が主宰する「レクイエム・プロジェクト」は、人と人、地域と地域をつなぐ合唱プロジェクトとして、阪神・淡路大震災の被災地である神戸で2008年に始まりました。これまで全国10箇所で開催し、現在、北いわて(久慈、野田村など)、仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎といった自然災害や戦災で傷ついた7地域で継続した活動を行っているほか、海外公演(プラハ、ウィーン、パチカン、イタリア、ポーランド)も行っています。

<https://www.requiem-project.com>



レクイエム・プロジェクト東京2015
～戦後70年、追悼と希望、そして平和への思いを未来へ～
(ティアラこうとう 大ホール)



現在までのプロジェクト実施地域、関連活動地域

神戸(2008年2月～現在)

レクイエム・プロジェクト発足の地。阪神・淡路大震災犠牲者の追悼をきっかけに2008年2月から準備活動が始まり、7月から合唱団の練習を開始。現在、活動14年目。2016年までは毎年震災の日である1月17日にコンサートを実施。2017年より、他地域の団員が参加しやすい日程で開催。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、活動の中心的存在。毎年コンサートを開催。



兵庫県佐用町(2010年11月～現在)

2009年に発生した水害犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。現在活動11年目。各活動地域の中で混声合唱団から唯一の女声合唱団に昨年変更。数年に1回コンサートを開催するほか、積極的に合唱団としての定期演奏会を行う。

長崎(2012年9月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。趣旨に賛同し、公募により集まった合唱団員数は全国でも有数。2015年のコンサートは長崎市被爆70周年記念事業に、2020年のコンサートは同75周年記念事業に採択。浦上天主堂で追悼コンサートを開催。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを実施。

沖縄(2010年4月～2015年6月)

沖縄戦の犠牲者追悼をきっかけに那覇で活動を開始。2015年の沖縄戦終結70年の追悼コンサートをもって5年間の活動を終了。

広島(2013年2月～現在)

原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。さらに2014年に発生した大規模土砂災害犠牲者の追悼も加わる。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを開催。



札幌(2012年3月11日)

東日本大震災チャリティーコンサート実施。神戸と東京の団員有志が参加。

北いわて(2013年11月~現在)

東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。久慈、野田村を中心に、八戸や盛岡を含む周辺地域からも参加。現在活動8年目。

気仙沼(2015年4月~8月)

東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに期間を限定して活動し、コンサートを開催。

仙台(2013年4月~現在)

東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。東日本大震災被災地の中心的活動地域。毎年1回、コンサートを開催。大船渡や陸前高田の人たちも、毎年仙台のコンサートに参加している。現在活動9年目。

福島(2012年3月16日)

福島市主催の震災復興コンサートに、和合亮一氏との対談や合唱で上田益、指導スタッフ、神戸と東京の合唱団有志が出演。

南相馬(2013年9月~2014年4月)

東日本大震災犠牲者の追悼をきっかけに期間を限定して活動し、コンサートを開催。

東京(2010年4月~現在)

神戸について全国2番目の実施地域。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、神戸とともに活動の中心的存在。東京大空襲、関東大震災などの災害を活動根拠としている。数年に1回コンサートを開催するほか、不定期に合唱団としての定期演奏会を行う。現在活動12年目。



<海外での活動>

- ブラハ(チェコ):2012年4月1日、東日本大震災チャリティーコンサートをドヴォルザーク・ホールでプラハ・フィルと開催。日本から神戸・東京の音楽ソリスト5人と合唱団有志17人が参加。在チェコ日本国大使館後援。
- ウィーン(オーストリア):2014年10月11日、聖シュテファン大聖堂主催公式コンサート開催。東日本大震災から3年を迎え、その追悼の思いを込め、神戸・東京の音楽ソリスト(指導者)8人、仙台、南相馬、東京、神戸、広島、長崎から参加したプロジェクト合唱団有志、そして仙台フィルメンバー4人を含む総勢158人と現地のプロ・オーケストラにより演奏。
- 復興祈念と平和への祈りを込め、バチカン教皇庁の特別な許可を得て、「バチカン・イタリア特別公演」を2016年9月に実施。サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏、システリーナ礼拝堂での献唱(以上バチカン)、聖フランチェスコ聖堂(アッシジ)、サンタ・トリニータ教会(フィレンツェ)での演奏会を行う。音楽ソリスト4人と各地のプロジェクト合唱団有志、総勢106人により演奏。聖フランチェスコ聖堂で初演した、プロジェクト主宰者・上田益作曲「ミサ・プレヴィス〜平安への祈り」は、初演に先立ち教皇フランシスコに献呈する荣誉をバチカン教皇庁から与えられた。
- 「レクイエム・プロジェクトinポーランド〜平和への祈り〜」を、クラコフ市特別名誉賛助後援、在ポーランド日本国大使館後援のもと、2019年10月に実施。滅多に演奏の機会を持ってないシフィドニツァ・平和教会でのオルガンとのコンサート、クラコフ聖マリア教会での献唱、聖カタリーナ教会でのクラコフ・フィルハーモニー管弦楽団との共演、ワルシャワでは聖十字架教会ミサでの演奏や、ワルシャワ大学日本学科設立100周年記念行事の一環としてコンサートを実施。

最初にプロジェクトを行った神戸では震災から13年が経過していた。それでもなお心の復興には程遠く、悲しみや苦しみを抱えて生きている人たちがほとんどだった。そのことから考えても、東北ではもっと時間が必要になると思っていたし、まずは基本的な復旧や瓦礫の処理が終わり、被災者の人たちの生活が少しずつ改善され、復興がある程度進まないことには、プロジェクトは無理だと思っていた。更には関西出身の私には、東北で音楽家の知り合いもなく、どこから手をつけたら良いのか、全くわからなかった。

ところが不思議な力に導かれるように一つの扉を開けると、思いもよらないスピードで連鎖し、レクイエム・プロジェクトが東日本大震災の被災地で動き出すことになっていった。ただ、それはあくまで今振り返ってみればの話であり、今もなお手探りの部分があることもまた事実だ。

レクイエム・プロジェクトは、それぞれ土地柄や気質も違う全国7箇所で開催する。だからこそ、被災地の詩人の詩による新しい合唱曲の練習や自由に参加できる各地のコンサートを通して、地域を越えた精神的な繋がりが参加者の間で生まれてきた。それは、それぞれが少しずつ心を開きながら、異なる惨禍とその悲しみや苦しみへの共感、そして思いを共有し合うことで、自然に生まれてきたような気がしている、ありがちな「絆」という言葉や「寄り添う」という言葉とは全く違い、心を一つにするという言葉とも違う。私は意図的にその言葉は使わないし、あえて言えば「心を重ね合う」活動だと思っている。

【東日本大震災の被災地における活動と関連事項の年譜】

2011年	
3月11日	東日本大震災。
3月19日	レクイエム・プロジェクト 緊急チャリティーコンサート開催(兵庫県佐用町:さよう文化情報センター)。
3月24日	ツイッターでの「詩の礫」を被災後連日投稿されていた福島市の詩人・和合亮一さんに初めて電話。プロジェクトの趣旨を伝え、新作のための詩の書き下ろしを依頼し、快諾を得る。
3月25日	レクイエム・プロジェクト 緊急チャリティーコンサート開催(神戸市:神戸新聞松方ホール)。
4月16日	福島市を訪れ和合亮一さんと書き下ろしの詩に関する打合せ。原発事故の影響で市中は閑散。
4月下旬	和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲の初演などを行うコンサートの準備に入る。
5月中旬	前年より打診していたプラハでの拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」レコーディングに関する打合せなどを兼ねて、プラハに滞在。プラハフィル関係者との面談と意見交換を行い、レコーディング終了後に、東日本大震災追悼チャリティーコンサート開催の可否などを相談。
6月下旬	渥美公秀・大阪大学教授から岩手県野田村でのレクイエム・プロジェクトの実施依頼がある。
7月3日	東京藝術大学音楽学部学生有志によるチャリティーコンサート(晴海トリトンスクエア2F グランドロビー)において、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」の全曲演奏が行われる。
7月5日	震災後まだ4ヶ月ほどしか経っていない北部沿岸部の岩手県九戸郡野田村を訪問。現地で復興支援に取り組む大阪大学の渥美教授とともに、現地の女声合唱団「コールわさらび」の大澤和子代表と面会し、プロジェクトの説明を行う。また、津波で流された練習用の電子ピアノを贈呈することになるが、現地や近隣の被害の大きさを見て、プロジェクトの実施にはまだまだ時期尚早という印象を強く持つ。当面は現地に在住する詩人などとの交流を先に始めようとする。
7月中旬	和合亮一さんから新作組曲のための詩を受け取り、作曲を開始。
8月9日	カワイ出版が5月11日にスタートさせた合唱曲による被災地支援「歌おうNIPPON」プロジェクトに、レクイエム・プロジェクト佐用町2011コンサートでお披露目する拙作「大切なふさと」を提供し、アップロードされる。
8月28日	レクイエム・プロジェクト佐用町2011コンサート。野田村の合唱団に電子ピアノを贈呈する義援金募集を併せて行う。
8月31日	野田村を訪れ、合唱団「コールわさらび」の皆さんに電子ピアノを贈呈。以後、時間を置く。
9月27日	和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲のうち、先行して作曲していた終曲「生きる」を、カワイ出版の「歌おうNIPPON」プロジェクトに提供。10月6日にアップロードされる。以後、順次作曲が完成し、プロの音楽家と東京藝大の音楽専攻生による合唱団の練習が10月から始まる。
10月29日	レクイエム・プロジェクトTOKYO2011コンサート開催(TOKYO FM ホールにおいて昼夜2回公演)。公演では和合亮一さんの詩による新作混声合唱組曲「黙礼」初演や、ご本人によるその詩の朗読などにより構成。今年は、「黙礼」初演から10年となる。このコンサートに先立つ10月中旬には、福島県南相馬の「ゆめはっと合唱団」メンバーの方から電話があり、津波で多くのメンバーを失った合唱団として、是非とも自分たちの合唱団でも演奏したいとお申し出だった。東京での「黙礼」初演の記事が福島の新聞に掲載され、その記事を読んだ電話だった。それがきっかけとなり、翌2012年に「ゆめはっと合唱団」の第5回定期演奏会で「黙礼」の南相馬初演が実現。

2012年

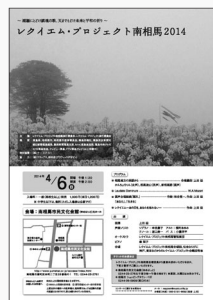
1月9日	陸前高田、大船渡を訪れる。合唱団「けせん第九を歌う会」の指揮者の千葉久美子さんと初めてお目にかかり、レクイエム・プロジェクトに関してお話しさせていただいた。
1月15日	拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」が全音楽譜出版社から刊行。
3月11日	震災からちょうど1年となる日、レクイエム・プロジェクトに参加していた声楽家・石塚幹信さんの地元・札幌で、東日本大震災チャリティーコンサートを開催(札幌時計台ホール)。
3月16日	和合亮一さんの呼びかけにより開催された「レクイエムをあなたと、雲と光のコンサート」(福島テルサFT ホール)において、拙作「黙礼」「レクイエム」の演奏、和合亮一さんとの対談を行う。このコンサートには阪神・淡路大震災の被災者でもあるレクイエム・プロジェクト神戸の合唱団員有志と、レクイエム・プロジェクト東京の活動に関わる声楽家および合唱団員有志が参加。
4月1日	チェコのプラハにおいて3月29日から31日まで、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」のCDレコーディングをプラハフィルおよび現地合唱団、そして日本からのソリスト4人と行う。そのレコーディングに参加したメンバーに、神戸と東京のレクイエム・プロジェクトに参加する合唱団メンバー有志が日本から参加し、東日本大震災追悼チャリティーコンサートを、在チェコ日本国大使館の後援を得て開催(ドヴォルザークホール)。来場者からの義援金は帰国後、岩手・宮城・福島の3県の義援金窓口に送金。
4月10日	ヴァイオリンドクターの中澤宗幸氏が発案者となり、被災地で生まれ育ちながら津波で流され瓦礫と化した木材を材料にして制作されたヴァイオリン(震災ヴァイオリン)の演奏を、千人を目標につないでいくプロジェクト「千の音色でつなぐ絆」。そのプロジェクトのために「Triste」「夜明け」の2曲を作曲し提供。レコーディングが、若手ヴァイオリニストのホープ、岡本誠司さん(当時高校3年)のヴァイオリンと金山千春さんのピアノで行われた。この楽曲は4月23日に、TV番組のものたの「朝ズバ」でも、岡本さんの生演奏で紹介され、以後そのヴァイオリンプロジェクトに参加する方たちにより演奏されている。
6月17日	活動3年目を迎えたレクイエム・プロジェクト沖縄のコンサートを、オーケストラとともに開催(てだこホール)。オーケストラのメンバーの1人で、福島原発事故の影響から子供を守るため、沖縄に避難していた仙台のヴァイオリン奏者から、「是非とも東北でプロジェクトを行ってほしい」と、仙台フィルのヴァイオリン奏者・大友靖雅さんを紹介される。
6月20日	前年に野田村を訪れ、電子ピアノを贈呈した合唱団「コールわさらび」代表の大澤和子さんから手紙が届く。6月18日にご縁があって東京の多摩交響楽団とのコンサートで歌う機会を得て、その中で拙作「大切なふるさと」を歌ったこと。その歌をとて気に入り、また地元でも歌うこと、機会があれば会いたいと思っていることなどが書かれ、楽曲を通して少し身近な存在となれたことを知る。その手紙を読んだ後、電話をして改めてまた野田村に行くことを告げ、地元で創作している詩人を探し始め、宇部京子さんに出会うことになる。それ以来、宇部さんとの作品は14曲。そして同じ日に、声楽家で岩手大学教授、盛岡カンタータフェライン指揮者の佐々木正利さんから直接電話をいただく。拙作レクイエムやレクイエム・プロジェクトにも興味を持ってくださっているとのことで、急遽24日に山梨大学で開催される日本音楽表現学会でのパネラーの一人として参加することになる。テーマは「震災と音楽表現」。阪神・淡路大震災をきっかけに始めたレクイエム・プロジェクトについて語ることに。さらに後日、日本音楽表現学会の論文集「音楽表現学のフィールド2」(東京堂出版刊)にレクイエム・プロジェクトに関する論文を寄稿することになる。
8月下旬	沖縄で紹介いただいた仙台フィルの大友さんと面会。前向きな話となる中で、同じ仙台フィルでインスペクターをしている我妻さんもお紹介いただき、プロジェクトの実現の可能性が見え始める。
9月下旬	野田村出身で久慈市在住の詩人・宇部京子さんに初めてコンタクトを取り、作品や資料を送付。
10月3日	約1年ぶりに野田村を訪れ、宇部京子さんにお目にかかるとともに、「コールわさらび」の練習にもお邪魔し、岩手県北部沿岸部の人たちとの交流が始まる。プロジェクトに関してはしばらく保留のまま、宇部京子さんの詩による作品を少しずつ作曲し、その楽曲を持って定期的に「コールわさらび」の練習指導にお邪魔することとなる。
10月5日	混声合唱組曲「黙礼」(詩:和合亮一)がカワイ出版から刊行。
11月18日	ゆめはっと合唱団第5回定期演奏会(南相馬市民文化会館 大ホール)において、拙作混声合唱組曲「黙礼」が演奏される。これがきっかけとなり、レクイエム・プロジェクト南相馬へとつながっていくことになる。
11月20日	仙台フィルの大友さん、我妻さんとともに、仙台でのプロジェクトの指導や実行委員長をお願いする工藤欣三郎さんと面会。プロジェクトの動きが一気に具体化していく。
12月23日	岩手大学教授の佐々木正利さんとのご縁で、同大学合唱団第59回定期演奏会(盛岡市民文化ホール)において、拙作「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」の全曲演奏が行われる。

2013年

2月中旬	仙台での合唱団員募集を始める。募集記事が河北新報などに掲載される。
4月7日	「レクイエム・プロジェクト仙台」の合唱団練習がスタート。以後、通年のプロジェクトとして毎月2回～3回の練習を現在まで続け、上田自らも月に1度の指導を行なっている。
5月13日	前年に続き、陸前高田と大船渡へ2度目の訪問。メンバーを多数津波で失った「高田合唱団」の指導者で指揮者の伊藤祥子さんに初めてお目にかかる。高田合唱団は、2012年に出版されたばかりの拙作「レクイエム」を、おそらく最初に被災地で演奏した団体。そして、前年もお目にかかった「けせん第九を歌う会」の千葉久美子さんとも再会。2013年11月16日に初めて開催する、仙台でのコンサートへの参加検討などをお伝えした。
6月2日	<想>と題された「けせん第九を歌う会in大船渡」のコンサートで、拙作「黙礼」から3曲が抜粋演奏される。
7月18日	相馬地域の各合唱団の代表などを対象とした「レクイエム・プロジェクト説明会」を南相馬において実施。前年に「黙礼」を演奏した団体を中心となり、合唱団員の募集を始める。
7月25日	女声合唱組曲「黙礼」がカワイ出版から刊行。
9月15日	「レクイエム・プロジェクト南相馬」の合唱団練習がスタート。以後、震災から3年を迎える2014年に向けて月2回程度の練習を継続。

11月16日	レクイエム・プロジェクト仙台2013コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。和合亮一さんをゲストに迎えた仙台で初のコンサート。「黙礼」「レクイエム」のほか、宇部京子さんとの「とうさんの海」の仙台初演を行う。東京と神戸のプロジェクト合唱団有志、けせん第九を歌う会、高田合唱団の有志も参加。コンサートの模様は、河北新報や朝日新聞、読売新聞などに掲載された。
12月16日	野田村の合唱団「コールわさらび」との交流が元になり、いよいよ「レクイエム・プロジェクト北いわて」の活動が始まる。久慈市からの参加者なども受け入れ、まずは震災から3年となる2014年を目指すことに。
2014年	
4月6日	レクイエム・プロジェクト南相馬2014コンサート開催(南相馬市民文化会館)。仙台、東京、神戸、広島でプロジェクトの活動を行う合唱団有志も参加。その他、飯野混声合唱団(福島市)も参加。南相馬では、このコンサートまでの期間限定となったが、同年秋に開催する仙台およびウィーン公演に参加を希望するメンバーのみ練習を継続。コンサートに関して、NHK ラジオ、福島民報、福島民友の各紙に掲載。
7月27日	レクイエム・プロジェクト北いわて2014コンサート開催(野田村体育館)。仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町でプロジェクトの活動を行う合唱団有志も参加。これ以後、北いわてでの活動は拠点を久慈市に移し、現在も継続した活動を行う。コンサートはデーリー東北、岩手日報、および神戸新聞や読売新聞の兵庫版にも取り上げられた。
9月21日	レクイエム・プロジェクト仙台2014コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。前年の県外参加者に加え、南相馬でプロジェクトに参加していたメンバー有志、飯野混声合唱団も参加。この年、仙台のケーブルテレビジョンが丁寧に活動とコンサート取材し、現在もアーカイブで視聴可能。またミヤギテレビのニュース番組でも紹介された。
10月11日	震災犠牲者の追悼と、被災地支援の感謝を込め、ウィーンの聖シュテファン大聖堂公式コンサートとして、レクイエム・プロジェクトのコンサートを開催。仙台、南相馬のメンバー有志のほか仙台フィルのメンバー有志も現地のプロ・オーケストラに加わり、その他全国各地でプロジェクトの活動を行う合唱団有志、ソリストなど総勢158人が日本から参加して開催。大成功となったこのコンサートは、河北新報でも記事として取り上げられた。
2015年	
1月中旬	大阪大学の稲場圭信教授から、気仙沼でのレクイエム・プロジェクト実施の依頼がある。巨大絵画で被災地を描く活動をしている画家・加川広重さんなど、諸分野の人たちとのコラボレーションということで、単発の短い活動となることを前提に準備開始。
3月10日	「けせん第九を歌う会」が報道ステーション(テレビ朝日系列)に出演し、震災から4年を迎えるにあたってのインタビューのほか、拙作「黙礼」から抜粋で2曲目「風」を生演奏で歌う。
4月中旬	日本と同じ震災国であるイタリアにおける、レクイエム・プロジェクトとしての演奏計画打合せが始まる。
7月12日	レクイエム・プロジェクト仙台2015コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。2013年のコンサートの際に、和合亮一さんからレクイエム・プロジェクトの合唱作品を前提とした新作詩の書き下ろし提案があり、その詩による新作初演を含む内容となる。新作の作品は、混声および女声の楽譜2種類がすでにカワイ出版から刊行されている。組曲のタイトルは「光と木の影に」。
8月6日	レクイエム・プロジェクト気仙沼2015コンサート開催(気仙沼市民会館)。
9月6日	レクイエム・プロジェクト北いわて2015コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動拠点を久慈市に移してからの初めてのコンサートで、北いわてとしては2回目のコンサート。
2016年	
3月	この年から「けせん第九を歌う会」主催の追悼演奏会に仙台などの合唱団員有志が参加。15日には詩人・宇部京子さんの作品7曲が、女声(児童)合唱のための「三陸鉄道が行く～小さな村の物語～」として全音楽譜出版社から刊行。
7月18日	レクイエム・プロジェクト北いわて2016コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動開始から約3年となり、仙台とともにプロジェクトに参加する人数も増えて充実した活動が継続されていることから、この地域では初めてオーケストラおよび声楽ソリストとのコンサートを実施。
9月16日～25日	日本と同様、大きな地震が多発するイタリアで、被災地同士の交流を図るため、「レクイエム・プロジェクト バチカン・イタリア特別公演～東日本大震災から5年、復興祈念・平和への祈り～」を実施。バチカン教皇庁から特別に許可され、「サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏」「システリーナ礼拝堂での献唱」(以上2箇所はバチカン)、「聖フランチェスコ聖堂でのコンサート」(アッシジ)、「サンタ・トリニータ教会でのコンサート」(フィレンツェ)の4つの演奏を行なった。全参加者は101人、東日本大震災被災地からは25人が仙台から参加した。また聖フランチェスコ聖堂で世界初演した「ミサ・プレヴィス～平安への祈り～」は、初演に先立ちフランシスコ教皇に楽曲を献呈する栄誉をバチカン教皇庁から与えられた。
10月9日	レクイエム・プロジェクト仙台2016コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。
2017年	
7月16日	レクイエム・プロジェクト仙台2017コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。ローマ教皇への献呈曲などを演奏。
2018年	
3月3日	レクイエム・プロジェクト仙台の活動が5周年を迎えるこの年から、ホール以外の場所での演奏と同じ地域の被災者の方々との交流を目的としたミニコンサート始める。3日は「せんだい3.11メモリアル交流館」で、7日は復興住宅「あすと長町 第二市営住宅集会所」において、仙台メンバー有志とともにミニコンサートを開催。
7月16日	レクイエム・プロジェクト北いわて2018コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。活動5周年を迎え、この年もオーケストラとともに実施。
8月12日	レクイエム・プロジェクト仙台2018コンサート開催(東北大学百周年記念会館 川内萩ホール)。活動5周年を迎えたコンサート。
9月15日	北いわてでのプロジェクトで取り組んできた地元の詩人・宇部京子さんとの作品第2集が、女声合唱作品集「風のように～三陸鉄道にのって～(全6曲)」として、全音楽譜出版社から刊行。

9月17日	朝日新聞岩手版において、レクイエムプロジェクト北いわての活動やメンバーの震災当時の話などが「3.11 その時 そして」の中で全16回の連載記事として掲載開始。
11月10日	朝日新聞の首都圏から以北全地域で、「歌い上げる、鎮魂と希望 岩手・北三陸で続く合唱プロジェクト 東日本大震災8年目」と題された、レクイエム・プロジェクト北いわてに関する大きな記事が掲載。
2019年	
3月2日	前年より始めた復興住宅でのミニコンサートを、この日は「あすと長町 市営住宅集会所」で、6日には「あすと長町 第二市営住宅集会所」で、仙台プロジェクトの合唱団有志と共に開催。
3月23日	これまで三陸鉄道は南リアス線、北リアス線をJR山田線が繋ぐ形で運行していたが、悲願とも言うべき三陸鉄道リアス線としての一貫運行が開始。この記念式典には北いわてプロジェクトの合唱団員と、釜石出身の東京団員、およびレクイエムプロジェクトの代表と副代表が列席。詩人・宇部京子さんの作品「三陸鉄道が行く」「走れ! 三陸鉄道」を、宮古市、釜石市の高校生たちと共に合唱し、花を添えた。
4月1日	久慈市では、震災の記憶を次世代の子どもたちに繋ぐ取り組みの一つとして、市立の小学校、中学校全校に、レクイエム・プロジェクトで生まれた合唱作品の楽譜「三陸鉄道が行く～小さな村の物語～(全7曲)」と「風のように～三陸鉄道にのって～」の2冊の楽譜(いずれも作詩・宇部京子、作曲・上田益)を配布し、音楽教育での活用を決定。
5月26日	三陸鉄道リアス線誕生記念「走れ! 三陸鉄道 ミニコンサート」(久慈市アンバーホール・大ホール)開催。それに先立ち、前日26日には全国7地域でレクイエム・プロジェクトの活動を行う合唱団員有志約70人が三陸鉄道2両を貸し切り、南の「盛」駅から北の「久慈」駅まで163km全線を移動し、被災地の現状を自らの目に焼き付けた。
6月19日	震災から10年を迎える2021年に仙台で初演し発信する混声合唱組曲の詩を、被災地の取材を長年続けてこられたローカルジャーナリスト・寺島英弥さんに依頼。
8月25日	レクイエム・プロジェクト仙台2019コンサート開催(日立システムズホール仙台・コンサートホール)。
9月9日	寺島英弥さんから、新作合唱曲のための詩4編の初稿を受け取る。以後、最終稿に向けてプレストを行う。
10月18日～27日	レクイエム・プロジェクト ポーランド特別公演を実施。ソリスト含め全国で活動するレクイエム・プロジェクト関係者のうち、北いわて及び仙台からの33人を含む132人が参加。シフィドニツァ・平和教会、聖カタリーナ教会(クラコフ)、聖マリア教会(クラコフ)、聖十字架教会(ワルシャワ)、ワルシャワ大学における演奏に参加。
2020年	
3月11日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。新型コロナ感染拡大の影響も広がりつつある中、無事に開催。
7月上旬	コロナ禍により、活動を3月後半から6月下旬まで各地とも休止。7月から活動を再開。震災から10年の年に向けた寺島英弥さん詩による新作合唱組曲の練習が、順次始まる。
12月5日	レクイエム・プロジェクト仙台2020コンサート開催(カトリック 元寺小路教会聖堂)。コンサートは8月開催予定だったものを、内容など大幅な変更を行い、日程も変更、感染防止対策を十分に行った上で実施。更には特別なご招待者を除き、無観客で開催。ライブ配信を行った。
2021年 震災から10年	
2月中旬	寺島英弥さん詩による新作合唱組曲全4曲の作曲を終える。時期をほぼ同じくして、宇部京子さん詩による新作「空から」の作曲も終え、仙台はもちろんのこと、全国の活動各地での新作に取り組む練習が本格化していく。
3月10日	仙台復興住宅でのミニコンサート開催(あすと長町 第二市営住宅集会所)。新型コロナ感染拡大の影響により実施は不可能に思えたが、震災から10年を迎える大きな節目となる年であることと、年に一度のこのミニコンサートを楽しみにしてくださっている高齢の被災者の方々の願いもあり、従来よりも演奏人数の縮小や感染防止への配慮を十分行いつつ実施。
5月23日	レクイエム・プロジェクトTOKYO2021開催。当初は5月4日開催予定であったが、緊急事態宣言下での無観客開催要請が発令され延期。紀尾井ホールに、仙台プロジェクトの指導者で指揮者の工藤欣三郎さん、ピアニストの菅原紀子さん、声楽ソリストの小野綾子さんが参加。仙台で初演する寺島英弥さん詩による新作混声合唱組曲から、第3曲「また逢える」を部分初演。
7月18日	レクイエム・プロジェクト北いわて2021コンサート開催(久慈市アンバーホール・大ホール)。
9月11日	レクイエム・プロジェクト仙台2021コンサート開催(多賀城市文化センター・大ホール)。



◆記録(東日本大震災被災地での活動に対する助成、報道)

- <助成> ●宮城県 文化芸術の力による心の復興支援(2016年から5年連続) ●(公財)宮城県文化振興財団 ●仙台市民文化事業団
 <報道> ●朝日新聞 ●読売新聞 ●河北新報 ●福島民報社 ●福島民友新聞 ●岩手日報 ●デーリー東北 ●NHK仙台放送局
 ●ミヤギテレビ ●CAT-V 仙台ケーブルテレビ

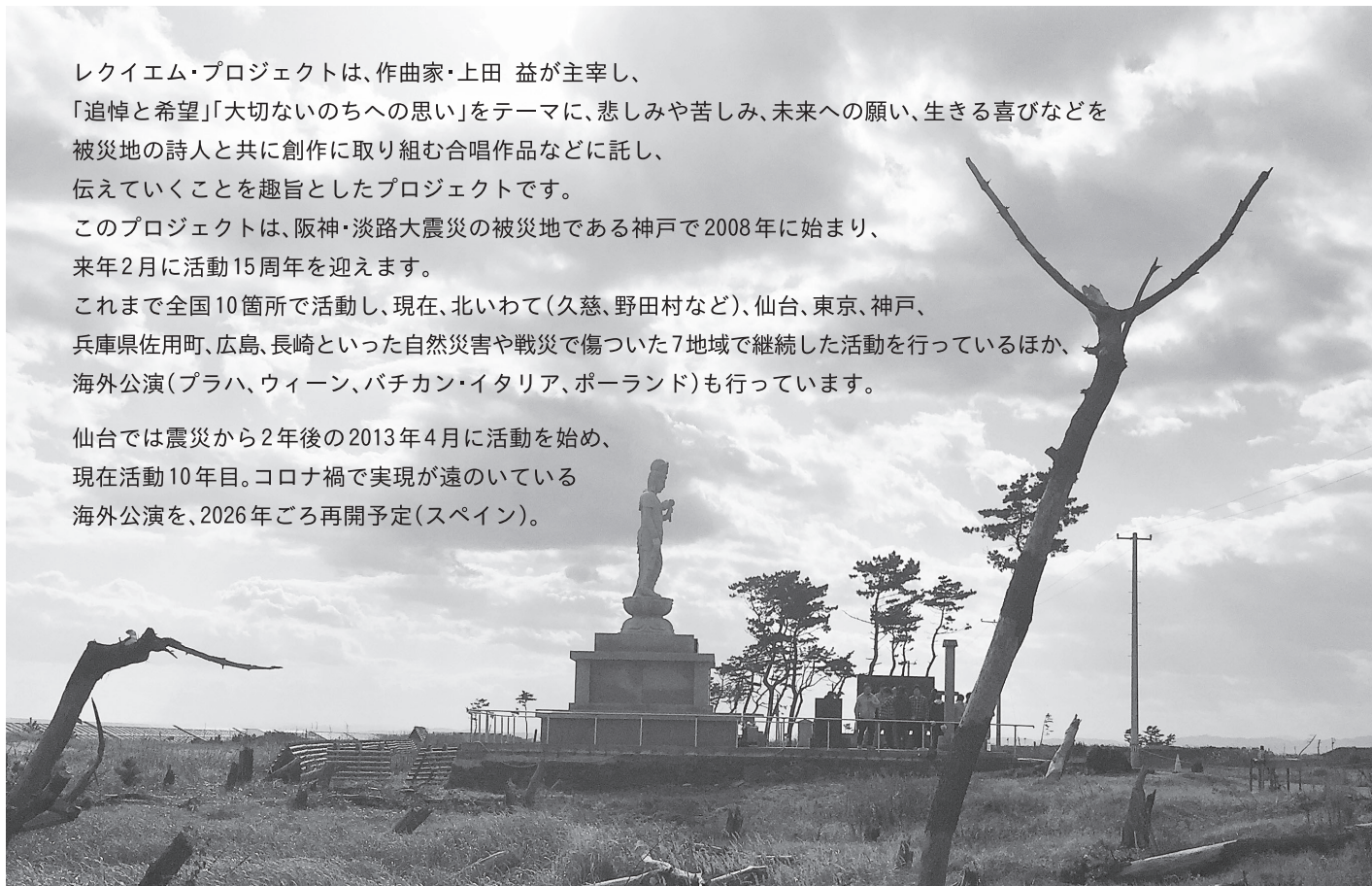
レクイエム・プロジェクト仙台合唱団では
2023年秋に開催予定の活動10周年記念コンサートに向けて
合唱団員を新たに募集します!

レクイエム・プロジェクトは、作曲家・上田 益が主宰し、「追悼と希望」「大切ないのちへの思い」をテーマに、悲しみや苦しみ、未来への願い、生きる喜びなどを被災地の詩人と共に創作に取り組む合唱作品などに託し、伝えていくことを趣旨としたプロジェクトです。

このプロジェクトは、阪神・淡路大震災の被災地である神戸で2008年に始まり、来年2月に活動15周年を迎えます。

これまで全国10箇所で活動し、現在、北いわて(久慈、野田村など)、仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎といった自然災害や戦災で傷ついた7地域で継続した活動を行っているほか、海外公演(プラハ、ウィーン、バチカン・イタリア、ポーランド)も行っています。

仙台では震災から2年後の2013年4月に活動を始め、現在活動10年目。コロナ禍で実現が遠のいている海外公演を、2026年ごろ再開予定(スペイン)。



来秋の10周年記念コンサートでは、4年ぶりにオーケストラと共に「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」(全音楽譜出版社)を演奏する予定です。またその他にピアノ伴奏により、仙台での活動初年度に演奏した福島のパオ・合亮さんの詩による混声合唱組曲「黙礼」全5曲(カワイ出版)、そして昨年仙台プロジェクトで初演した元河北新報記者でジャーナリストの寺島英弥さんの詩による混声合唱組曲「また逢える」全4曲(全音楽譜出版社)の演奏を行います。

- 募集パート ソプラノ、アルト、テノール、バス ※ご夫婦、親子でのご参加も大歓迎です。

 - 参加資格 趣旨に賛同いただける方。合唱経験は無くても構いませんが、ある程度楽譜が読める方。

 - 練習会場 主に若林区文化センター展示ホール

 - 練習日 原則として月3回、土曜または日曜の午後2時～5時

 - 会費 月額2,000円(3か月ごとにまとめて納入)。継続した活動を前提としていますので、コンサートを区切りにはしていません。自己都合による欠席の場合も、会費を納入いただけます。

 - 申込方法 以下のいずれかの方法でお申し込み下さい。お申込みに際しては、お名前、ご住所、電話番号(携帯番号もできるだけご記入下さい)、メールアドレス(無い場合は不要)を、必ずお書き添えください。
- メール: requiem@music.nifty.jp ファックス: 03-6701-7174
-
- お問い合わせ メール、または携帯電話 080-5181-6692(担当:上田)まで。

レクイエム・プロジェクト仙台でのコンサートの記録

2013~2021

レクイエム・プロジェクト仙台2013

～東日本大震災の犠牲者となつた方々の追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2013年 11/16(土) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2013

レクイエム・プロジェクト仙台2014

～東日本大震災の犠牲者となつた方々の追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2014年 9/21(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2014

レクイエム・プロジェクト仙台2015

～東日本大震災の犠牲者となつた方々の追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2015年 7/12(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2015

レクイエム・プロジェクト仙台2016

～東日本大震災から5年、追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2016年 10/9(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2016

レクイエム・プロジェクト仙台2017

～東日本大震災から6年、追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2017年 7/16(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2017

レクイエム・プロジェクト仙台2018

～東日本大震災から7年、追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2018年 8/12(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2018

レクイエム・プロジェクト仙台2019

～東日本大震災から8年、追悼と未来への希望、願いを込めて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2019年 8/25(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2019

レクイエム・プロジェクト仙台2020

～希望と未来を信じて～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2020年 12/5(日) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2020

レクイエム・プロジェクト仙台2021

～また逢える～



仙台市青葉区大森の地に、自然環境、歴史、文化、音楽が息づいて、静寂と哀愁、希望と未来の光を照らす。大震災後、残った樹木や草花から芽生える自然の生命力と大震災犠牲者への追悼と未来への希望、願いを込めて。

2021年 9/11(土) 開演午後5:00 閉演午後7:30
一般前席 1,500円(税込) 一般後席 1,000円(税込)
会場 仙台シラステムスホールコンサートホール

指揮 上原 謙 指揮者
ソプラノ アリス 高橋 美穂
テノール 尾花 昌子
ピアノ 尾花 昌子
チェンバロ 尾花 昌子
管楽器 尾花 昌子
弦楽 尾花 昌子



2021



技術の力で未来を支える



建設ファスニング技術を通じて道路・鉄道・建築耐震などの安全対策に注力し、社会の発展と環境づくりに貢献します。

GBRC 性能証明 第01-03号 改2

ハイブリット 耐震補強工法

本工法は、工事中の騒音や振動、粉塵を軽減できる特長を生かしながら、病院や学校あるいは事務所建築を中心とした、居ながらの耐震補強工事を可能としました。



内付工法 内装仕上げ例



外付工法 外観



ケー・エフ・シーはレクイエム・プロジェクトを応援します！



建技審証第 1203 号

せん断補強 RMA 工法

「既存ボックスカルバートや擁壁などの連続壁に対し、内空断面を侵さず補強を行いたい。」そんな希望にお応えするため開発されたのが、RMA 工法です。



RMA 工法施工前



RMA 工法施工後

【事業内容】

耐震関連工事の設計・施工及び環境・安全施設工事
建設用ファスナー類及び付属品の販売・施工
トンネル掘削用資材の販売

【事業所】

東京・大阪・名古屋・仙台
横浜・静岡・岡山・広島・福岡



株式会社 ケー・エフ・シー

<http://www.kfc-net.co.jp>